

# CASBEE® 名古屋

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_名古屋2010年版

■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya2010\_V1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)鳴海駅前JVプロジェクト	階数	地上18F
建設地	愛知県名古屋市緑区鳴海町字上汐	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	577 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2012年12月21日
敷地面積	3,888 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,594 m <sup>2</sup>	確認日	2012年12月25日
延床面積	18,541 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 71%

③上記+②以外の: 71%

④上記+: 71%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.1

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 「つどう、つづく、つなぐまち、鳴海」をコンセプトとし、駅前再開発の新しい顔として、都市型住宅を提供する。敷地内に緑豊かな通り抜け公開広場を設け、地域密着を目指す。自然エネルギー利用や省エネルギー配慮、再生材やリサイクル材の使用など、エネルギーや資源の負荷抑制に配慮する。	<b>その他</b> 地域貢献として、地域の災害拠点となるライフラインの確保や防災倉庫の提供を行う。また、子育て支援として保育所を建物内に誘致する。	
<b>Q1 室内環境</b> 省エネルギー対策等級4を計画し、冷暖房負荷の低減に努める。また、化学汚染物質の少ない建材を利用する。	<b>Q2 サービス性能</b> 近隣住民の意見をヒアリングし、都市計画のコンセプトに基づいた計画を立案する。地域貢献を第一に考え、子育て世代を誘致し、子育て支援サービスを提供。防災倉庫や豊かな緑地、公開広場を設けるなど防災や環境に配慮する。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 緑地の質や量を十分に確保し地域特性に基づいた生物環境を創造する。都市計画に基づいた建物形態とし、地域の歴史も継承する。敷地内を横断する公開広場を設け、地域の賑わいに貢献する。
<b>LR1 エネルギー</b> 省エネルギー対策等級4として建築物の熱負荷を抑制する。太陽光発電を採用し、設備システムの高効率化に努めるなど、エネルギー利用の負荷抑制に配慮する。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 雨水排水や再生材リサイクル材を使用するなど、資源の保護・削減に努める。	<b>LR3 敷地外環境</b> 鉄道直結の計画とし、電気自動車の充電施設を設けることで、交通負荷を抑制する。商業地域でありながら住宅地並みの日影基準とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される